

災救通信

平成30年
2月1日
第13号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

宣誓

我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

冬季訓練

今シーズンの降雪量は札幌圏では当初少なめであったが、このところの寒波ではほぼ平年並みとなってきた。また、今年は稚内や枝幸、初山別、北見、更には新篠津、石狩北部等も軒並み平年を上回っているところも多い。更には苦小牧、八雲、森、函館等は特に大雪となっており生活にも支障をきたしている。こうした中、豪雪地域の支部隊では長年にわたって行ってきた、冬季訓練を各所で実施した。

南空知支部隊

南空知支部隊（寺澤信彦隊長）では1月29日、30日の両日、三笠市で冬季訓練として除排雪を実施した。29日幾春別分教会で結隊式を行った後、早速2班に隊員が分かれて市内の独居老人宅や障害者宅で軒下にたまった雪の除排雪を行った。この日は6軒の作業を完了し、雪で閉ざされていた窓は明るい陽が差し込んだ。夕刻には宿泊場所である夕張大教会へ移動し、団らんのひと時を過ごし一日の疲れを癒した。翌30日、再び現場の三笠市



三笠市施設での除排雪作業。腰まで埋まります。

へと出向き作業を行った。同支部隊の活動は三笠市社会福祉協議会からの要請を請けての活動で、約20年間続けられている。市社協の上田直樹事務局長も初年からこの活動に携わっているが、上田氏曰く「市社協では高齢者等へ、ぬくもり除雪を実施しているが、天理教さんはいつも平気で屋根へ登ったり、馬力と機動力

のある作業にいつも感心させられます」と、こうした活動に参加している民間企業や学生さん達との違いを語ってくれた。同じく17年間市社協の担当者として携わってきた成田氏は「三笠市以外の市町村からも作業にいられていることに本当に感謝しています」と述べられた。また、参加者の一人である黒沼善志^{よしゆき}北歳分教会長は「こうした活動を機に、自身のえりを正すことが出来たら」と参加にあたっての思いを聞かせてもらった。前日同様二班に分かれて



上田事務局長（左）と寺澤隊長。



住人の方より感謝の気持ちを。



成田氏（左端）高橋支部長（右端）



除雪機を持ち込んで。菅井会長。



襟を正す機会にと。黒沼会長。

の作業であったが、最後は心身障害者支援施設「ななかまど共同作業所」に全員が集結し、腰の深さまでぬかる雪を掻き分けて除雪作業を行った。その後夕張大教会へ戻り、婦人会が用意した昼食をいただき解散した。また、午後からは有志によって支部内教会の除排雪を行った。参加者は南空知支部長をはじめ隊員34名（のべ）婦人会14名が参加し、2日間で住宅10軒、施設1棟、教会1棟の除排雪を終えることが出来た。



屋根まで繋がった雪を大型除雪機で飛ばす。

空知支部隊
豪雪地域を多く抱える空知支部隊（高坂正道隊長）でも冬季訓練を1月30日、月形町、31日、美唄市で実施した。支部隊ではこうした訓練を昭和60年から行い、雪の少ない年を除いて今年で31回目の実施となる。結隊式は月形町にある樺戸分教会で行われ、支部隊長、永関正元副支部長、福井正憲月形町社会福祉協議会会長よりあいさつをいただいた。引き続き担当者よりの説明の後、早速町内の独居老人宅などへ出発した。スコップ、スノーダンプ、脚立、はしご、更には軽トラックに除雪機を積んで、

3班に分かれて除排雪を行った。月形町ではこの日も朝に掛けて20cmの降雪があつて、町内の各所では災救援隊の活動の他にも屋根の雪降ろしやタイヤショベル、除雪機が稼働し賑やかなことであつた。同町は国道275号線が通っているが、市街地の両脇には3メートル以上の高さに積まれた雪が長い長い壁を作つて、ある意味別の雪祭り状態で、正に豪雪の町となつていた。依頼を請けた老婦人が一人で暮らしている住宅では、住宅の老朽化が進み屋根の雪も落ちることなく溜まりに溜まって2メートル近くも積もり、1階の窓は完全にふさがつていた。そこへ隊員達が駆けつけ、手際よくスコップで通路を作り除雪機が通れるようにし、屋根とつながつた部分の雪をくずしては機械で飛ばし、くずしては飛



坂本前支部隊長。経験と技術を活かし屋根へ。

ばしてをくり返し、瞬く間に溜まった雪を排雪し終えた。参加の一人、真鍋顕成^{あきなり}支部副隊長は結隊式で聞かせてもらった「自分達も大変な中であって、こうして参加させてもらう事に大きな意味、意義がある」という永関副支部長のあいさつを聞き、改めて活動の意義を実感し、参加の喜びを語ってくれた。



除雪機での作業を見守る下村会長と真鍋支部副隊長（右）。

また、別班では屋根の雪が地面に溜まった雪と完全につながってしまつて、飽和状態となつている屋根との境目を、屋根の上から順番に雪を落とす作業を行った。ここでは父である会長と共に少年会時代より参加してくれていた、結実分教会の高橋宜大^{よしひろ}隊員は、「昨年の南富良野町での災害出動に参加したことで、「少しでも被害に遭われた方の力になつたら」という気持ちで思い起こされ、改めて災害隊の活動の意義を思い感じて参加していると話してくれた。



少年会時代より参加している高橋隊員。活動の重要性を感じて。



2メートルを超す雪山を除雪機でまくり上げる。

月形町では住宅8軒の除排雪を完了した。二日目は美唄市に現場を移動し、市社協より要請のあった独居老人住宅3軒の除排雪を行った。この日は午前で作業を終え解隊し、午後からは有志で会場教会の屋根の雪降ろしを行った。長年に亘る教友同士の繋がりの強さが、多くのおたすけになつていると感じた。二日間の参加者は隊員35名、婦人会26名、少年会3名の計64名。(のべ)

支部隊長会議報告

昨年11月1日教務支庁に於いて支部隊長会議を開催した。会議に先駆けて教務支庁より南北2班に分かれて神名流しを実施した。会議冒頭、教区奥村隊長から、北海道振興局、同社会福祉協議会が行っている、災害に備えるの連携会議(※)に参加し協力していること、何よりも災害が起きないよう積極的に地域ひのきしん活動に励もうと、あいさつがあった。会議の内容として、平成30年の平時訓練を三笠市でとこの日発表された。(後日市の都合により、洞爺湖町での開催と変更された。)また、布教部、青年会との布教活動協力についてのアンケートが手渡され、提出を求めた。後日、担当者で精査し、今後の活動に役立てたいとしている。アンケート未提出支部は2月2日迄、庶務宛に送付のこと。

重要議案として、各支部で災害対策委員会未設置支部は早急に設置するよう促した。会議後半は名刺交換やあいさつのマナーを確認し、行政などへの訪問に向けての演習を行った。

※災害ボランティア連携会議について

昨年秋季より全道を14箇所に分割された振興局管内の市町村で、関係団体が活動紹介や連携方法を協議し有事に備える。こうした席に各地区災害隊長が出向いている。今後も教区スタッフや支部隊長の日程が調整できれば会議への出席(年一回)を依頼したい。これまで渡島、網走、石狩、留萌、空知、宗谷、後志、上川の各振興局開催の会議へ出席した。以上



B班、野村余市支部隊長が旗手を務めた。



A班、中村富良野支部隊長が旗手。

今後の予定

冬季訓練 (いずれも除排雪)

2/4	富良野支部	上富良野町にて
2/19	小樽支部	小樽市にて
2/19~20	天龍支部	深川市にて

詳細は支部へお問い合わせを

立教181年 平時訓練

6月29日~7月1日

於：洞爺湖町